

|      |                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時 | 令和7年4月27日（日）午後1時30分から午後3時まで                                                                                              |
| 開催場所 | 舞鶴市役所本庁本館4階 議員協議会室等                                                                                                      |
| テーマ  | 災害への備え～自分や大切な人を守るために日頃からできること～                                                                                           |
| 参加市民 | 24人                                                                                                                      |
| 出席議員 | 担当委員会：総務消防委員会<br>川口孝文、小谷繁雄、小西洋一、西村正之、野瀬貴則、山本治兵衛<br>サポート委員会：福祉健康委員会<br>田畑篤子、小杉悦子、杉島久敏、廣瀬 昇、眞下弘明、南 正弘<br>オブザーバー<br>肝付隆治 議長 |

## 内 容

### 【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、自助の重要性や課題に対する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

〈参加者の皆さん〉

- (1) テーマに関心を持つ市民
- (2) 西舞鶴高等学校生徒
- (3) 東舞鶴高等学校生徒
- (4) 日星高等学校生徒
- (5) 舞鶴工業高等専門学校学生



当日は、いつ起こるか分からない災害に対して、日頃どのように考えられているか、どのような備えをされているか、一人一人の防災意識を高めるためにはどういった取組が必要か、参加者の皆さんと意見交換することで、皆さんが自分や大切な人を守るために必要なことや皆さんの住んでいる地域を皆さん自身の手で守る方策を検討した。

各グループの意見交換の内容は、次のとおり。

**1班 担当議員：小西洋一 市民参加人数：5人**

**《災害に対する日頃の考えや災害への備えに関する意見》**

- ・ 高浜原発が近くにあり、その30キロ圏内に市街地が位置することから、放射性物質が漏れれば、どこまで逃げるか、いつまで逃げるかを常に考えている。
- ・ 現行の避難計画には、非現実的な内容もあり、命を守るためには、もっと現実的な避難方法の確立が必要ではないか。特に、地震と津波、地震と原発事故などの複合災害に対する避難計画が不十分だと感じている。
- ・ 行政も個人も、「地震の時はどうする」、「水害の時はどうする」など、様々な災害に応じた対応が考えられていないのではないか。
- ・ 自然災害だけでなく、人災による被害も想定されるので、常に自他の命を守るためにどうするかを考えておかないといけない。
- ・ 家族でも常に一緒にいるわけではないので、いざという時のために、離れている時の連絡手段や集合場所などを決めておく必要があると思う。
- ・ 地域の方との連携も強めていく必要があると思う。地域にどのような人が住んでいるのか、実際、災害が起きた時に助けがいる方などを事前に把握し、それぞれに応じた対応が求められる。

**《一人一人の防災意識を高めるために必要なことに関する意見》**

- ・ 地域の自治機能の向上が防災力を高めることにつながることから、行政の求める「個別の支援計画」も含めて、防災や要支援者の援助のために地域の方々と日常的に対話し、情報を集めて整理しておくことなどが求められる。
- ・ 災害に備えて、食料や水など個人的に備蓄物資を準備したり、避難先を確認することが必要である。そのため、行政からの日常的な啓発・啓蒙の強化が求められる。



- ・ 最低3日間は生き延びることができる備蓄が市内の全家庭に求められるが、家族3日分の備蓄品は個人責任では揃えられないと思う。また、備蓄品の更新も必要なことから行政の支援も必要であると思う。
- ・ 地域で自主防災部、リーダーを中心とした防災訓練や研修会の開催などを通じて、日常的に防災意識を向上させる取組や「地域防災計画」の強化が求められる。
- ・ 高齢者や支援の必要な方が確実に避難できるシステムづくり(例えば『バディ制度』など)を行政と町内会、民生委員等との共同で作成することがいざという時のためにどうしても必要だと思う。

#### ＜自助機能を高めるために必要な行政の支援に関する意見＞

- ・ 防災ラジオなどを各家庭に設置することや備蓄セットを配布することも行政の役割として必要ではないか。自己責任とすることではないと思う。
- ・ 行政を中心とした防災訓練や防災研修などの機会をもっと多く増やして、市民への啓発・啓蒙を強め、市民の防災意識を高めていくことが求められる。
- ・ 小学校や中学校で被災者の体験やボランティア体験の講演会などを開催し、学校での防災学習などを充実させることが市民の防災意識向上につながるのではないか。
- ・ 災害のたびに、市内でもボランティア支援などが行われるが、ボランティアに対する全面的な支援体制を強める必要がある。特に、貸切りバスを行政が手配するなどボランティア希望の方を積極的に被災地へ送ることのできる基盤づくりが必要である。
- ・ 地震や水害などにより家屋の全壊、半壊などの被害があるが、行政からの支援があまりにも不十分ではないか。自己責任では災害の復旧は難しい。行政からの手厚い復旧支援のシステムづくりが求められる。それが安心感と生きる希望につながると思う。

**2班 担当議員：小谷繁雄 市民参加人数：5人**

**＜災害に対する日頃の考えや災害への備えに関する意見＞**

- ・ 避難時に必要な持ち物（水、食料、非常用袋など）をあらかじめまとめて準備することが必要である。
- ・ 避難場所や緊急避難所の選定方法、運営の仕方、災害情報の共有や最適な避難ルートを確認することが重要である。
- ・ 要支援者や町内の高齢者への避難誘導について、誰がどのように対応すべきかを検討することが必要である。
- ・ 災害時に自分自身がどう行動すべきか、家族や友人とどうやって合流するかを日頃から話し合うことが必要である。
- ・ 安心できる生活を送るために、共助を進めつつ自治会や家族との密なコミュニケーションを取ることを重要である。
- ・ 情報収集や食事の確保を含む災害への準備が全体の備えを支える鍵であると考えている。



**＜一人一人の防災意識を高めるために必要なことに関する意見＞**

- ・ 防災への理解と備えを促すためには、具体的な準備と地域に根ざした行動が求められ、雨天を想定した備えやヘルメット、長靴など必要物品の準備、水や食料品の消費期限の確認が必要である。
- ・ 非常用持ち出し品や避難所で必要なもののリスト作成が重要である。
- ・ 避難所の状況やハザードマップを身近で活用しやすいものにする必要がある。
- ・ 地域特有の事情などを反映した防災意識を持つこと、被害が予想される場所や避難ルートの確認、緊急時の連絡体制や家族との集合場所を事前に決めることが重要である。
- ・ 町内活動や情報収集の準備をさらに進めるべきという意見が出された。その背景には、人とのつながりの希薄化や民生委員の減少といった課題があり、近隣住民同士のつながりを強化する必要がある。

### ＜自助機能を高めるために必要な行政の支援に関する意見＞

- ・ 自治会や各種団体への助成金をより充実させることが必要である。
- ・ 被災者の救助方法や防災用品の点検を含む具体的な対応を行政が支援することを求める。
- ・ 避難所の状況を市民へ周知すること、避難場所を明確にすること、備蓄物資の適切な保管場所を設置する必要性がある。
- ・ 防災訓練にレクリエーションや体験型活動を組み込むことで参加者の意識を高めること、防災学習会や地域での話し合いの場を設定することが必要である。
- ・ ハザードマップを身近で活用しやすいものにするとともに、災害情報の周知や共有の方法を工夫し、市民が緊急時に迅速な対応ができるよう行政が支援する必要がある。

**3班 担当議員：西村正之 市民参加人数：4人**

### ＜災害に対する日頃の考えや災害への備えに関する意見＞

- ・ 住民同士のつながりをつくるために日頃から挨拶を交わす。
- ・ 町内会の役員になり地域に貢献する。
- ・ 年に1回は防災について学ぶ機会を持つ。
- ・ 災害は突然やってくるという自覚を持つ。
- ・ 数日分の飲み物や食料の持参、防災グッズの準備、避難経路が混雑しないか確認しておく。
- ・ 川の氾濫を防ぐための対策が必要である。



### ＜一人一人の防災意識を高めるために必要なことに関する意見＞

- ・ 事前に避難場所の確認などを一人一人がしっかりとしておく。
- ・ 我が家の「防災リュックサック」をつくってみることによって、防災への自覚が高まる。

### ＜自助機能を高めるために必要な行政の支援に関する意見＞

- ・ 一人一人の防災意識を高めるための訓練・体験が不可欠である。
- ・ 防災マップ、タイムラインの定期的な見直しを行い、内容を深く理解し、様々な視点からも検証することで、見落としや誤りを防ぎ、有事に備える。

**4班 担当議員：野瀬貴則 市民参加人数：5人**

**＜災害に対する日頃の考えや災害への備えに関する意見＞**

- ・ 家具を固定しておく。
- ・ スマートフォンの充電用にモバイルバッテリーの備蓄をしておく。
- ・ カセットコンロは煮炊きと暖房に使えるので災害時に有利である。
- ・ 段ボールはベッドにもなるので備蓄しておく。
- ・ 常備薬や懐中電灯を準備しておく。
- ・ 水や食料はサイクル消費で常に備蓄しておく。

**＜一人一人の防災意識を高めるために必要なことに関する意見＞**

- ・ ハザードマップを見る機会をつくる。
- ・ 避難先の確認や連絡方法を家族で決めておく。
- ・ 地域の人との関係や声かけが重要である。
- ・ 職場、学校、自治会など所属する場所で必ず年1回集まって防災訓練を行う。

**＜自助機能を高めるために必要な行政の支援に関する意見＞**

- ・ 「備蓄品を買ってください」ではなく、行政から配布してほしい。
- ・ 避難訓練をもっと行ってはどうか。
- ・ いろんな人や年代の人と意見交換をする場が必要である。
- ・ 自主防災組織の取組がもっと活発になるように行政から自治会への働きかけを行う。
- ・ 実際に災害を疑似体験できる施設をつくる。
- ・ 災害時の対応マニュアルをつくって配布する。
- ・ ニューソープ（液体を固化させる薬品）を普及させる。
- ・ 避難中でも最新の情報が確実に手に入るよう、防災無線の設置・増設をする。
- ・ 防災品の紹介を行い、購入につなげる。



**5班 担当議員：山本治兵衛 市民参加人数：5人**

**《災害に対する日頃の考えや災害への備えに関する意見》**

大きく分けて以下のグループに分類される意見が出された。

**1 防災計画に関する意見について**

- ・ 自主防災から地域防災へのシフトアップを図ること

**2 個々の備えに関することについて**

- ・ 備蓄した食材の消費期限等を確認する必要性

- ・ 食料、貴重品バックや防災リュックを備えること

- ・ 自分の防災に備えるものをそもそも持ち合わせていない。

- ・ 家具の固定など地震に対する備えは極めて少ない。

- ・ トタン屋根の修繕ができていない。



- ・ 実際に災害が発生しなければ意識が生まれない。

**3 地域・コミュニケーションに関することについて**

- ・ 地域の付き合いが不足している。

- ・ 家族内での防災意識が共有できていない。

- ・ 要支援者救済の体制づくりや要救護者への役割分担ができていない。

- ・ 地域の役員や組長など、役割分担ができていない。

- ・ 地域の方々と自分自身が連携、交流ができていない。

**4 ハザードマップや避難経路に関することについて**

- ・ ハザードマップに示されている危険度や避難ルートが把握できていない。

- ・ ペットの避難が必要である。

- ・ 避難指示の在り方に問題がある。

5 避難所などのハードに関することについて

- ・ 避難所の場所が把握できていない。
- ・ 避難所の運営体制に不安がある。
- ・ 避難所の安全・安心に不安があり、最適化を図るべきである。

《一人一人の防災意識を高めるために必要なことに関する意見》

それぞれの課題に対して、意識を高める意見がそれぞれあった。

- ・ マイタイムライン、地域タイムラインを早急に策定する。
- ・ 自分自身で災害について考え、他人と共有する機会をつくる。
- ・ 最低ラインではなく、最高のラインで物事を考える。
- ・ 過去の災害から学ぶ機会はいくらでもある。
- ・ 指定された避難所まで、まずは実際に歩いてみる。
- ・ ソーラー式の懐中電灯を持ち歩いてみる。
- ・ 地域の住民とまずは関わりを持ってみる。
- ・ 避難所への避難は簡易トイレを持参するとして、まずは各自で配備する。
- ・ 避難に備え、備品や準備物のリストアップをする。
- ・ マンションやアパートでは個人同士の連携はできていないので、交流強化を行う。
- ・ 地域内では嫌な役でも引き受ける。

《自助機能を高めるために必要な行政の支援に関する意見》

一方で個人では無理な課題は行政で行ってほしいこととして以下の意見があった。

- ・ 避難所に関連して、説明を簡潔に分かりやすく示してほしい。
- ・ 地域の人と連携して行う避難訓練の開催は、地域に任せても進まないもので行政が主導してほしい。また、地域運営は地域自体が破綻寸前であるために、そもその地域づくりを行政がしっかりと行ってほしい。
- ・ 避難指示の在り方について、防災無線は何の指示か理解しにくい。あらゆる手法を駆使して住民全員が避難できるよう指示をされたい。
- ・ 避難経路は具体的に示すこと
- ・ 避難場所をそれぞれの地域で確認する説明会を行うこと

- ・ 舞鶴市のハザードマップをもっと活用できるようにしてほしい。
- ・ 防災に関する出前講座を徹底してほしい。
- ・ 津波に対する想定が欠落しているのではないか。垂直避難を可能にする避難所の整備が必要である。

**【今後の予定】**

災害に対する日頃の考えや一人一人の防災意識を高めるために必要なことを参加者と意見交換することで、自助の課題解決に向けた意見・アイデアを共有することができた。

出された意見をもとに、市民の皆さんが自分の命を自分で守る「自助」の心構えを持ち、自分や大切な人と災害に備えることができるように行政が支援できることを調査研究し、市への提言を目指す。